

女子大学の学士（経営学）課程修了者の学生生活と 就職活動について

小森 亜紀子¹、前田 純弘²、宮脇 啓透³

Outline of the University Life and *Shukatsu* (Job Hunting) of Students in Bachelor's Degrees in Business Administration Program of Showa Women's University

Akiko Komori, Sumihiro Maeda, Hiroyuki Miyawaki

1. はじめに

筆者らは 2013 年に新設された昭和女子大学グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科の学生を対象に、同学科の独自なカリキュラム・ポリシー（ビジネス 5 つの知で課題解決力を磨く）、ボストン留学、プロジェクトベースドラーニング（以下 PBL と記す）が学生にどのような影響を与えているかを自己評価アンケートの結果を中心に 2014 年から検証してきた（宮脇・小森・前田 2015）（前田・小森・宮脇 2016）。本稿では 2017 年 3 月に卒業した第 1 期生（2016 年度卒業生）の経年の自己評価アンケートの結果と就職活動に焦点を当て、学科での学びが学生にどのような影響を与えたかを検証する。

グローバルビジネス学部 1 期生の就職状況を概観すると、卒業生 149 名の就職率⁴は 97.3%で「AERA MOOK 就職率で選ぶ大学 2018」では「国際系学部」で 1 位とされている。一方「サンデー毎日（2017 年 8 月）」では「国際系」で 1 位、「商・経済系」で 2 位となっている。職種の特徴としては、総合職・地域総合職・準総合職に就いたものが 73 名と、就職者 144 名のうち半数以上を占めていることが挙げられる。

就職率は、新設の学科に 1 期生として入学してきた学生の意欲と行動の賜物であるが、自己評価アンケートの結果を時系列で追いながら、大学生活と就職活動との関係を明らかにしたい。

2. 2016 年度卒業生の 2 年・3 年・4 年次の自己評価

※本研究は平成 29 年度昭和女子大学研究助成金の助成を受けたものである。

¹ 昭和女子大学 グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科 専任講師／同大学 現代ビジネス研究所事務局長／女性文化研究所 所員

² 昭和女子大学 グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科 教授

³ 昭和女子大学 現代ビジネス研究所 研究員／同大学 グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科 客員教授／日鉄住金総研（株） 研究主幹

⁴ この場合の就職率は、就職者／（在籍者－進学者）であり、就職者／就職希望者で見ると 100%である（144/144）。

1 期生にアンケートを実施したのは、2015 年 1 月（2 年次）⁵、2015 年 9 月（3 年次）⁶、2017 年 3 月（4 年次）⁷である。

本学科では、2 年次前期に 4 か月⁸、学年全員で昭和女子大学ボストン校に留学をする。通常の留学とは異なり、集団留学で全員が同じ寮に滞在し、英語で授業を受ける。様々な学外での活動に参加できるが、個人の主体性により経験の質・量の差が生じる。

図 1 はボストン留学について尋ねた設問への 2 年次後期の 1 期生の回答である。留学生活は充実しており、英語力も伸びたとする者が多数を占めるが、「日本人以外と話すことが多かった」のは 30%ほどにとどまり、「生活の中で英語を使うことになれた」も 61.5%である。しかし、後述するが、この独特な留学経験がジェネリックスキル養成、就職活動満足度に影響を与えていると考えられる。

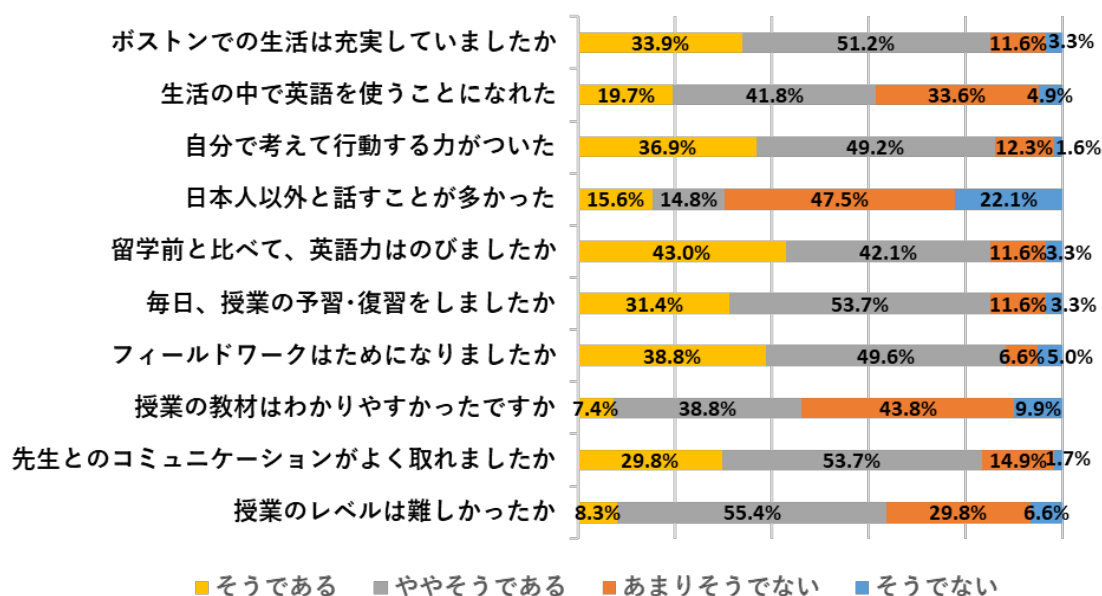


図 1 ボストン留学についての自己評価（2 年次）

主にジェネリックスキルについて聞いた設問の回答の経年変化をみると、図 2 のようになる。紙面の都合で全設問を提示できないが、ほとんどの設問で学年が上がるにつれ、自己評価が高くなる傾向がみとれる。学生は全員 3 年次からゼミに所属し、多くのゼミで産官学連携の PBL を実施していることも原因の一つと考えられる（宮脇・小森・前田 2015）⁹。5 つの設問で 2 年次より 3 年次の自己評価が下がっているが、その原因とし

⁵ 有効回答数 122（回収率 81.9%）。

⁶ 有効回答数 98（回収率 65.7%）。年度末に実施することが望ましかったが、時期的に困難があったため、9 月の実施となった。

⁷ 有効回答数 97（回収率 65.1%）。卒業式予行日と卒業式の日を実施した。

⁸ 希望者は 1 か月滞在延長可能。成績優秀で希望する者は 1 年間滞在可能。

⁹ プロジェクト参加率：2 年次 31.7%、3 年次 64.3%、4 年次 64.6%。

て、以下の 2 点が推測できる。①「新しいことにチャレンジするのが好き」「自分を見つめる機会がある」については、2 年次の留学後に比べ大学生活に慣れた時期の意識の低下、②「ものごとの原因や問題点を発見できる」「問題を解決する方法を考えて提案できる」は、PBL 参加でより現実的な視点を持ったことによる、自己評価の厳格化である。調査を実施した 3 年次 9 月は PBL に参加し始めたものの、まだ成果の出ない試行錯誤の時期に当たる。

3 年次に低下した「物事の原因や問題点を発見できる」「問題を解決する方法を考えて提案できる」「自分の強みを知り、伸ばそうとしている」「自分を見つめる機会がある」という設問への回答は、4 年次で大きく伸びており、PBL 参加経験は「対人・組織への積極的態度」や「前向きに活動する」といった複数の意識・態度に関連性が高く複合的に効果がある（宮脇・小森・前田 2015）ことに加え、就職活動経験の影響も考えられる。

しかし、本学の学生を対象にした他の調査（小森・木間 2016）と同様に「リーダーシップをとる」という設問では、他の設問への回答より低い傾向にあり、今後の課題である。

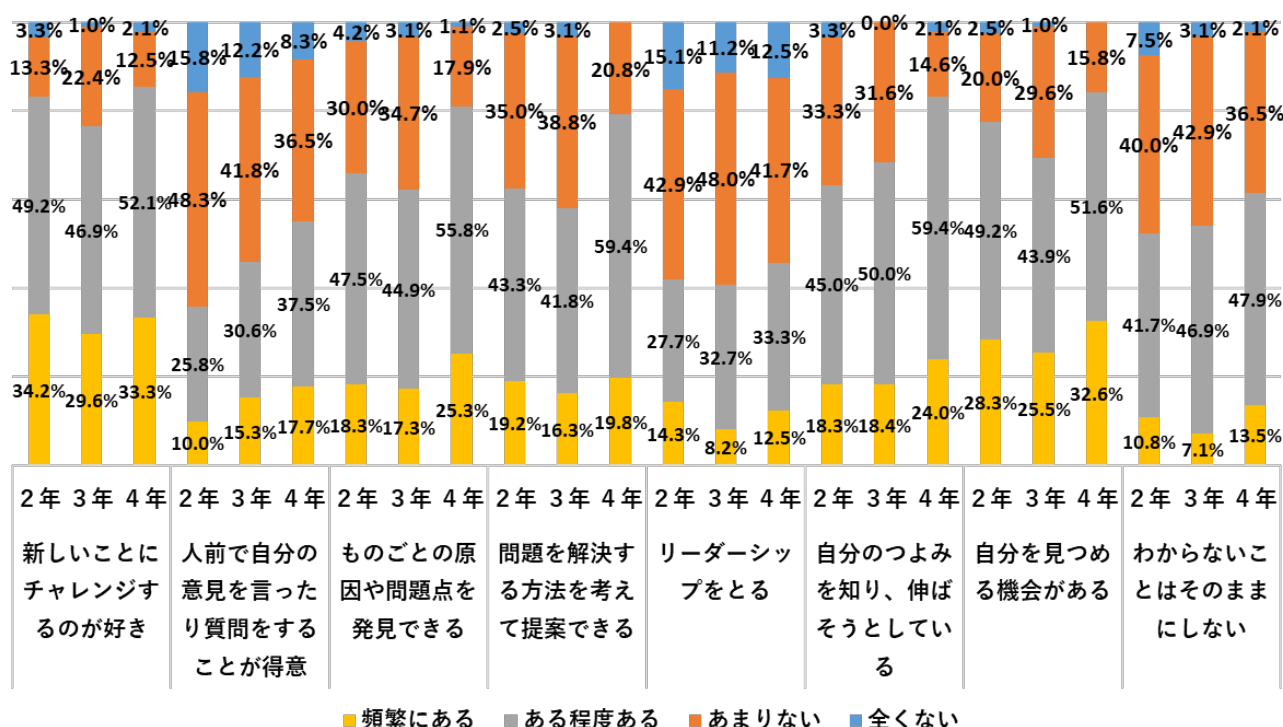


図 2 ジェネリックスキルの自己評価

学科の特徴である PBL への調査実施年度の参加状況は、表 1 のとおりである。所属ゼミの PBL に参加する他に、公募 PBL¹⁰に応募経験のある学生が 4 年次には半数弱となっている。

¹⁰ 公募 PBL とは、学生が閲覧できるポータルサイトで全学的に参加者を公募するものである。単位にはならないが、募集をかけると多くの学生からの応募があり、選考で参加者を決定する PBL もある。

PBL 参加経験者のみに、PBL 参加経験により得られたものを聞いた設問の回答が図 3 である。「プロジェクトグループ内での情報共有の方法を習得できた (94.4%¹¹)」「報告・連絡・相談の習慣が身についた (94.3%)」「計画の立て方を習得できた (87.4%)」等、産官学連携の PBL 参加による実践的な学びが見て取れる。

表 1 PBL への参加状況

	学年	参加
所属ゼミのプロジェクトなど必修活動の一環として	3 年	60.9%
	4 年	67.0%
ゼミ以外の公募プロジェクトに参加したことがある	3 年	27.5%
	4 年	46.1%

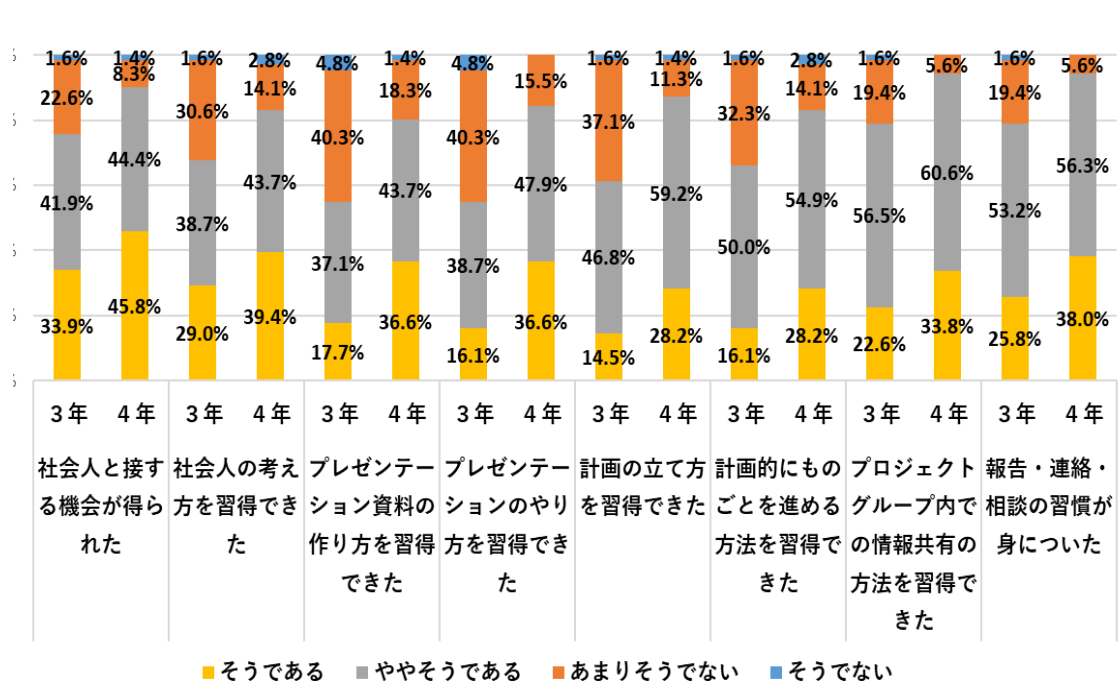


図 3 PBL 参加で身についたこと

3. 将来の夢と就職活動

30 年前日本では女子の学歴と就業率に相関は認められず、学校教育の経済効果は潜在的評価しかなされていなかったが (矢野・袖井 1987)、現在の女子高等教育には確かな経済的効用があるとされる (濱中 2013)。一方、女性の社会進出が進んでも男性の家事負担量は増えておらず¹²、高学歴の女性が社会的地位の高い職業に就くことができるようになったという変化は、女子学生の不安を増加させているかもしれない。

¹¹ 「そうである」と「ややそうである」を合計している。

¹² 「平成 28 年社会生活基本調査」

ロールモデルとなる上級生のいない新設学科に入学してきた学生は、将来についてどのように考えていたのか。将来前向き度についての設問への回答を経年で見ると（図 4 参照）、「将来について不安がある」は 4 年で減少するが 7 割が不安で、「夢を持っている」者は意外と少なく、入社直前の 4 年生が「社会に出て働くこと」に前向きでない傾向が強い。3 年次は就職活動がまだ始まっていない 9 月時点で、96.9%の学生が就職活動に不安を持っている。

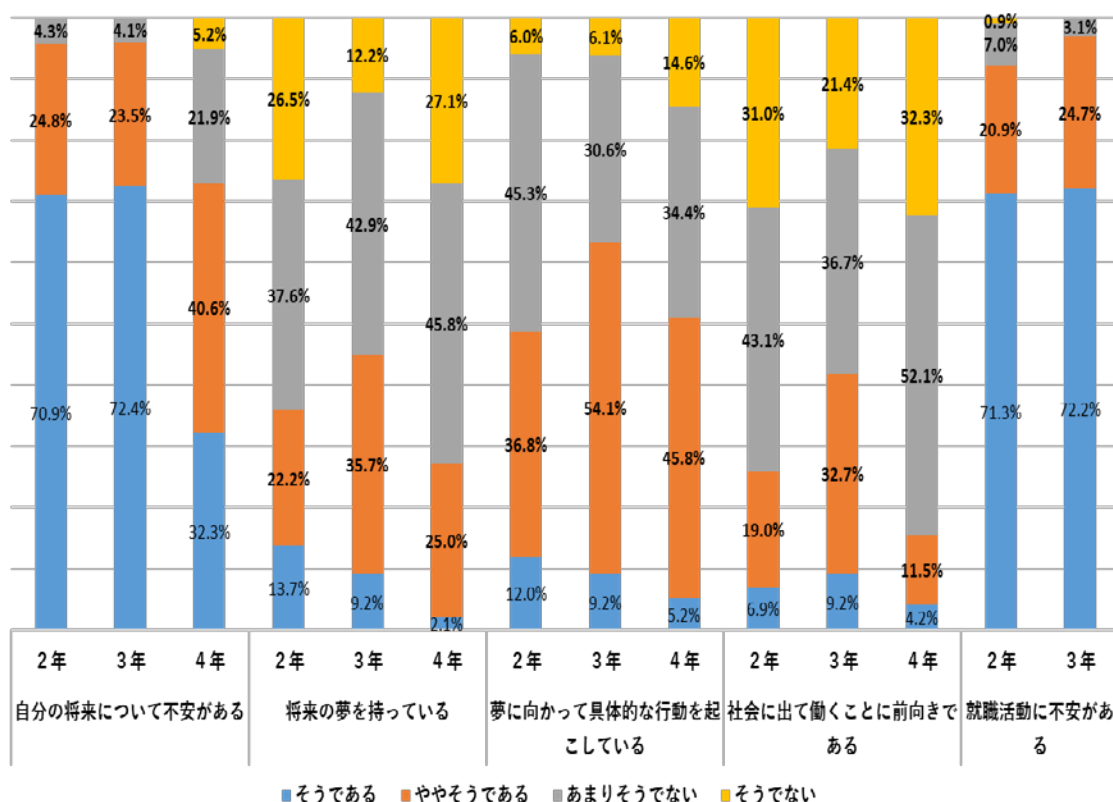


図 4 将来前向き度についての設問

4 年次 PBL 参加の有無と将来前向き度得点¹³の関係をみると、表 2 のようになり、PBL 参加経験者、それも公募プロジェクトに参加をする学生の前向き度が高い。正課学習積極度得点¹⁴も、公募プロジェクト参加群>必修プロジェクト参加群>不参加群の順である。

学生へのインタビューでは、留学により「協調性・まとめる力」が身につく、PBL 参加は、リーダーシップ、マーケティングなど、講義で習った科目について「百聞は一見にしかず」「実践で理解できた」とのプラス評価が多かった（前田・小森・宮脇 2016）。正課学

¹³ 図 4 にある設問の回答を得点化し合計したもの。

¹⁴ <資料>Q9(14)～(19)の設問の回答を得点化し合計したもの。

習積極度得点と社会性・自己理解力得点¹⁵も相関があり¹⁶、カリキュラム・ポリシーに沿った正課学習も学生のジェネリック・スキルに影響していると考えられる。

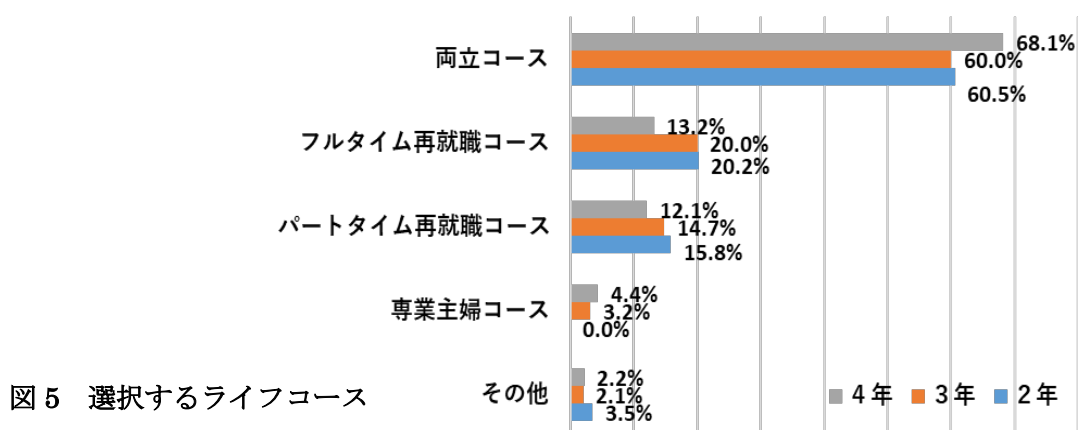
表2 4年次プロジェクト参加状況と将来前向き度

		平均値	度数	標準偏差
必修プロジェクト	参加	20.88	59	3.43
	不参加	19.69	29	2.84
公募プロジェクト	参加	21.44	41	3.68
	不参加	19.58	48	2.69

Range0～28

将来どのようなライフコースを選択するか聞いた設問¹⁷への回答は、図4のようになる。2013年に全学的に実施した調査では、両立コースを選択した学生は43.8%であったが（伊藤・森2016）、4年次では両立コースが68.1%と多くなっている。時代の変化で増加しているのか、学科の特性であるのかは不明であるが、95%以上の学生が一時離職しても仕事に戻るという意思をもっている。

では、そのようなライフコース選択をするという学生たちは、どのように就職活動に臨んだのであろうか。図6は「就職活動で当てはまるもの」を聞いた設問の回答である。比較的早くから用意ができる「SPI対策」「OBOG訪問」にはあまり熱心に取り組んでいないが、実際の就職活動が開始してから生じる「ES対策」「面接対策」には熱心に取り組んでいる。就職活動に大きな不安を抱えていた割には、「精神的につらい時期があった」は約4割にとどまっている。



¹⁵ <資料>Q9(8)～(13)の設問の回答を得点化し合計したもの。

¹⁶ 単回帰分析で、 $B=0.311$ 、 R^2 乗=35.7%、 $p<0.001$ である。

¹⁷ 設問は「あなたは現時点でどのようなライフコースを描いていますか。理想ではなく、現実にとると思われるコースを選んでください」である。

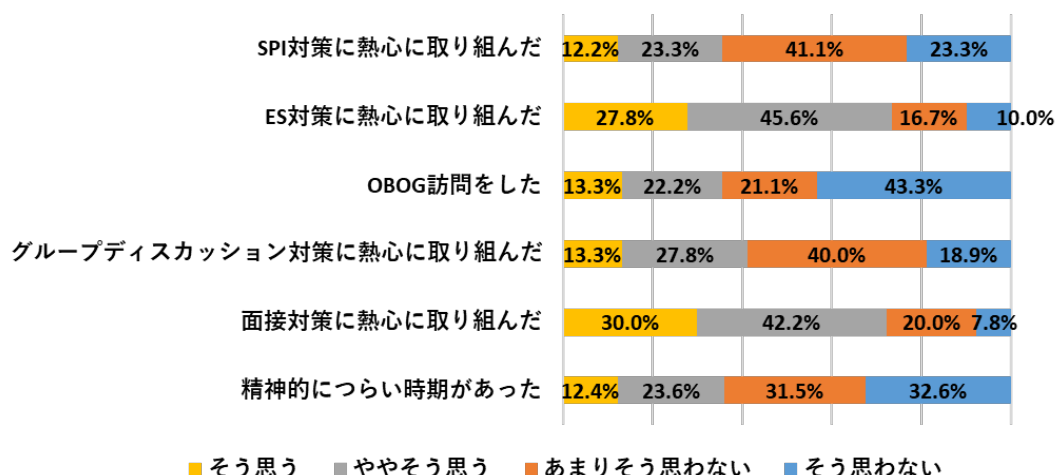


図 6 就職活動についての設問

就職活動で役に立ったものは図 7 のとおりで、上位から「教員による支援（94.0%）」「キャリア支援センターによる個別相談（93.3%）」「キャリア支援講座（89.7%）」「プロジェクト参加経験（89.4%）」「ボストン留学経験（88.9%）」「インターンシップ経験（86.2%）」「学寮経験¹⁸（57.9%）」である。PBL 参加がインターンシップ参加より役に立ったとするものが多いのは PBL を正課授業に取り入れている学科の特徴であるといえる。ボストン留学では「日本人以外と話すことが多かった」のは 30%ほどで、「生活の中で英語を使うことになれた」も 61.5%であったが、「集団留学」という独特な留学体験は就職には役立ったようだ。

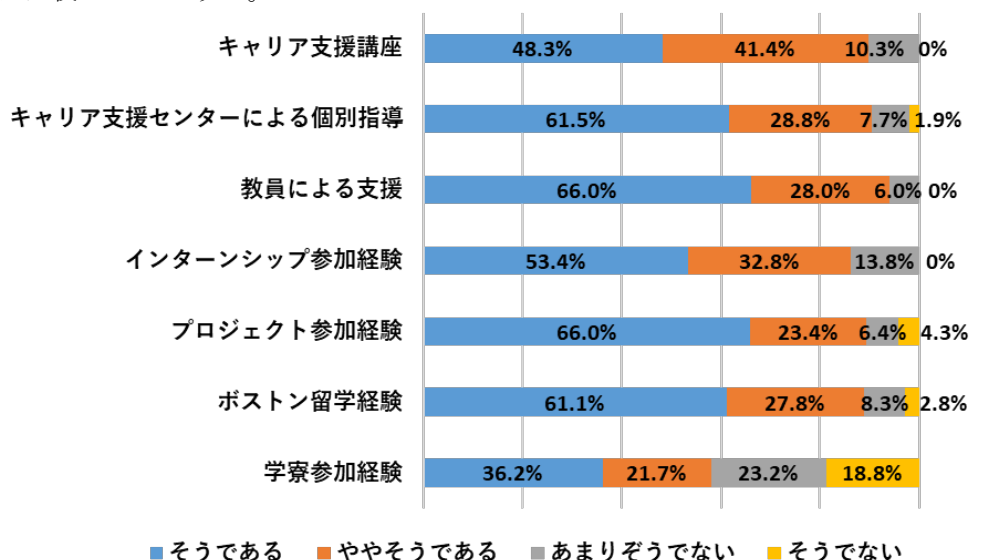


図 7 就職活動で役に立ったもの

¹⁸ 学寮とは、大学の研修施設（足柄又は館山）で毎年実施する、学科・学年別の宿泊研修である。学生は 8 人部屋で共同生活をする。

4. 就職活動満足度を規定するもの

「あなたは就職活動の結果について満足していますか」という設問に対する回答は、「そう思う 44.0% (n=40)」、「ややそう思う 44.0% (n=40)」で 88%の学生が満足していると回答している。「精神的に辛い時期があった」とした学生が 36.0%しかいなかったこともこの満足度の高さを裏付けている。

「満足している」と言い切れる満足度が高い群とそれ以外を比較するために、「そう思う」と回答した学生を 1 とし、それ以外を 0 とする「就活満足度ダミー変数」を作り、関係のある要素を探してみたところ、統計的に有意な差があるのは、対応前向き度得点／社会性・自己理解力得点／正課学習積極度得点／会社説明会参加回数であった（図 8・9 参照）。

就職活動に満足していると言い切れる学生は、対応が前向きで社会性・自己理解力もあり、正課学習にも積極的に取り組んでいた群である。そして、同群はエントリー件数・会社説明会参加回数・面接参加回数が少ない。満足群とそれ以外の群の会社説明会参加開始時期に着目すると差が見えてくる。満足群は 2016 年 2 月までに 45.6%、3 月に 44.0%が開始しているが、それ以外の群は 2 月までに 21.7%、3 月に 73.9%が開始しており、満足群の方が早く準備していることがわかる。一方、会社説明会参加終了時期に差はない。

エントリー開始も、満足群は 2016 年 2 月までに 22.6%、3 月 54.5%が開始しているが、その他群は 2 月まで 9.5%、3 月 90.5%となっており差がある。エントリー終了時期、面接開始時期、面接終了時期に両群の間に差はなかった。早くから準備を開始することと、就職活動の結果の満足度は相関があることがわかる。

就活満足度とジェネリックスキルの自己評価を見ると図 10 のようになり、やはり満足群の自己評価が高い傾向があった。

その他、総合職かどうかによる差も見てみたが、総合職に就職する学生の方が対応前向き度得点は高かったが、正課学習積極度得点は負の係数で必ずしも学習に積極的に取り組んだ学生が総合職に入職したわけではない。

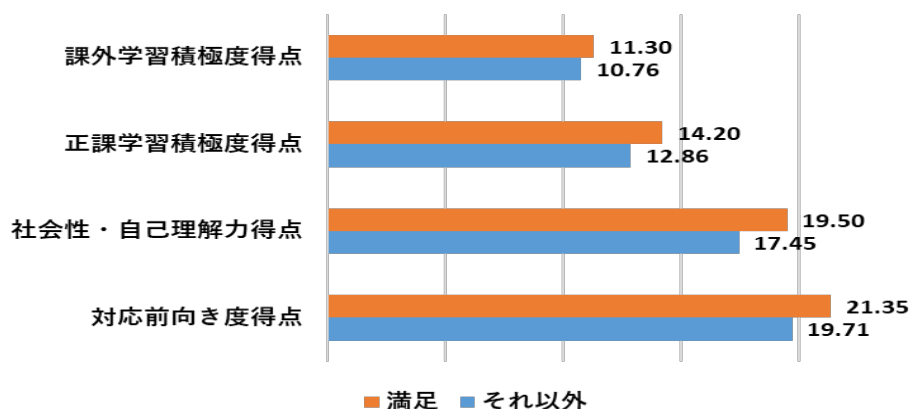


図 8 就活満足ダミーと関係のある自己評価得点¹⁹

¹⁹課外学習積極度得点は<資料>Q9(20)～(23)の設問の回答を得点化し合計したもの。。

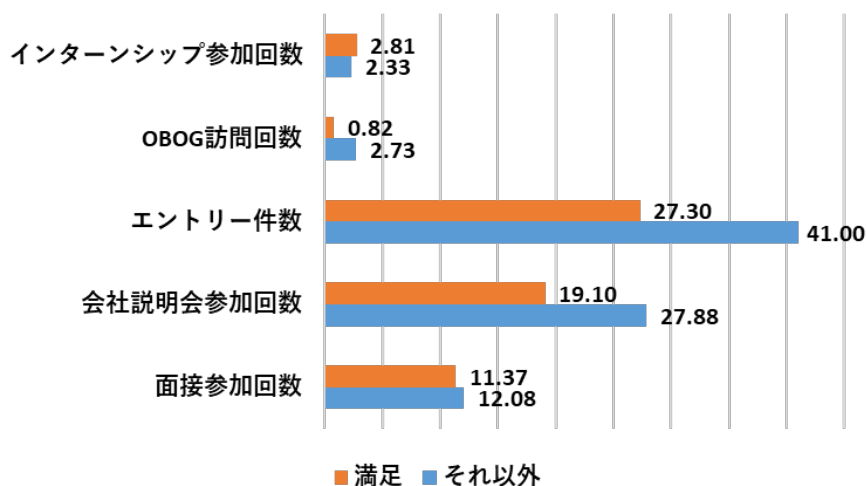


図 9 就活満足度ダミーと就職活動

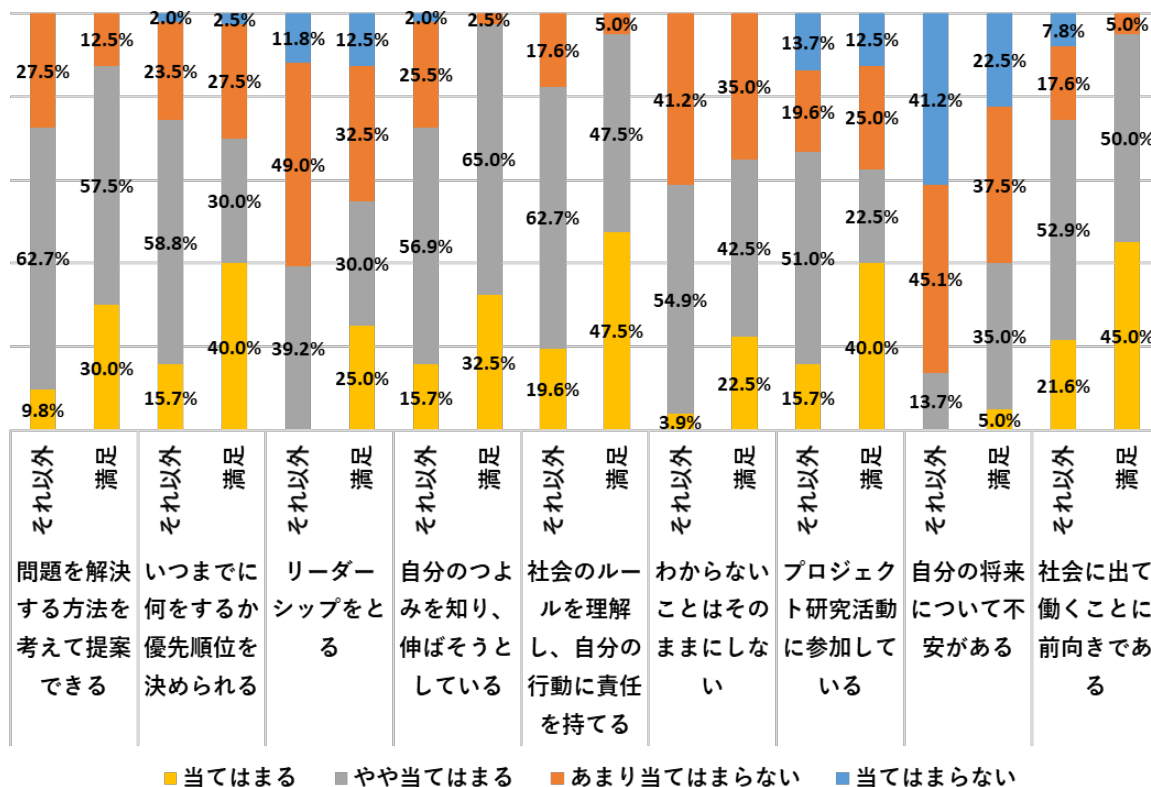


図 10 就活満足度とジェネリックスキル

5. おわりに

本稿は昭和女子大学グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科 1 期生の在学時の自己評価と就職活動について、単純集計を基に記述した。就職率が高いことだけが大学教育の目的ではないが、自分が納得できる就職活動ができるということは大切なことである。

もともと対応が前向きで、社会性もあり正課学習にも積極的に取り組む学生が、就職活

動満足度が高い可能性はあるが、そのような取り組み姿勢で学生生活を送れば結果に結びつく可能性もある。特に就職活動の準備を早くすることも重要なファクターであることを学生に伝えたい。

卒業式予行日・卒業式当日に実施したアンケートのデリケートな設問にも丁寧に回答してくれた 1 期生に感謝するとともに、社会人 1 年生として活躍していることを心から願っている。

<参考文献>

濱中淳子（2013）『検証・学歴の効用』勁草書房。

伊藤純、森ますみ（2016）「キャリアコア科目の履修と女子学生のキャリアデザイン」『昭和女子

大学女性文化研究叢書第十集 女性とキャリアデザイン』御茶の水書房。

小森亜紀子、木間英子（2016）「社会人メンタープログラムが学生に与える影響」『昭和女子大学

女性文化研究叢書第十集 女性とキャリアデザイン』御茶の水書房。

前田純弘、小森亜紀子、宮脇啓透（2016）「学士（経営学）課程教育における学習効果の測定－

集団留学等が学生の能力に与える影響についての考察－」昭和女子大学現代ビジネス研究所 2016 年度紀要、

http://swubizlab.jp/wp/wp-content/uploads/2017/03/2017_008.pdf.

宮脇啓透、小森亜紀子、前田純弘（2015）「学士（経営学）課程教育における学習効果の測定－

PBL による学生の変化の分析－」昭和女子大学現代ビジネス研究所 2015 度紀要、

http://swubizlab.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/2016_003.pdf

齊藤毅憲、佐々木恒男、小山修、渡辺峻（2010）『社会人基礎力の育成とビジネス系大学教育』

学文社。

袖井孝子、矢野眞和、岡村清子、藤崎宏子、長津美代子（1987）『現代女性の地位』勁草書房。

総務省統計局「平成 28 年社会生活基本調査」

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/pdf/gaiyou2.pdf>.2018.1.29

矢野眞和（1996）『高等教育の経済分析と政策』玉川大学出版部。

矢野眞和（2015）『大学の条件 大衆化と市場化の経済分析』東京大学出版会。

<資料ーアンケート調査票>

※2017 年 3 月実施の 4 年生用調査票の内容である。卒業式予行日・卒業式当日実施のため回答項目を減らして実施したため質問番号が飛んでいる。

ビジネスデザイン学科 学生生活に関するアンケート（4 年生用）

大学生活一般についておうかがいします

Q6 あなたの大学生生活は充実していましたか。

- (1) そう思う (2) ややそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

Q7 あなたは家族や学校関係者以外の大人と話す機会がどの程度ありますか。

- (1) 頻繁にある (2) ある程度ある (3) あまりない (4) 全くない

Q9 あなたは以下のどれに当てはまりますか。最も近いものを選んで下さい。	当てはまる	やや 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはまらない
(1) 新しいことにチャレンジするのが好き	1	2	3	4
(2) 人前で自分の意見を言ったり質問をしている	1	2	3	4
(3) 自分から進んで挨拶する	1	2	3	4
(4) ものごとの原因や問題点を発見するようにしている	1	2	3	4
(5) 問題を解決する方法を考えて提案している	1	2	3	4
(6) いつまでに何をするか優先順位を決められる	1	2	3	4
(7) リーダーシップをとる	1	2	3	4
(8) 健康的な生活をしている	1	2	3	4
(9) 自分のつよみを伸ばそうとしている	1	2	3	4
(10) 自分の欠点や短所に気がついている	1	2	3	4
(11) 自分の行動に責任を持てる	1	2	3	4
(12) 自分を見つめる機会がある	1	2	3	4
(13) 友人は多い方だ	1	2	3	4
(14) 授業の予習復習をしていた	1	2	3	4
(15) 英語以外の外国語習得の勉強をしている	1	2	3	4
(16) 何か資格を取得するための勉強をしている	1	2	3	4
(17) 授業では寝てしまうこともあった	1	2	3	4
(18) わからないことはそのままにしない	1	2	3	4
(19) 授業では率先して発言していた	1	2	3	4
(20) 部活・サークルなど課外活動に熱心に取り組んでいた	1	2	3	4
(21) アルバイトに熱心に取り組んでいた	1	2	3	4
(22) 社会人メンター制度を利用していた	1	2	3	4
(23) プロジェクト研究活動に参加していた	1	2	3	4

将来についておうかがいします

Q10 あなたは以下のことについて、 どう考えますか。	そうである	やや そうである	あまり そうでない	そうでない
(1) 自分の将来について不安がある	1	2	3	4
(2) 将来の夢を持っている	1	2	3	4
(3) 夢に向かって具体的な行動を起こしている	1	2	3	4
(4) 社会に出て働くことに前向きである	1	2	3	4

Q11 あなたは現時点でどのようなライフコースを描いていますか。理想ではなく、現実に取ると思われるコースを、1～5の中から選んでください。

1. 両立コース(結婚または出産後も仕事を継続する)
2. フルタイム再就職コース(結婚または出産を機にいったん退職し、子育て後再びフルタイムで就業)
3. パートタイム再就職コース(結婚または出産を機にいったん退職し、子育て後再びパートタイムで就業)
4. 専業主婦コース(結婚または出産を機に退職し、以後仕事を持たない)
5. その他(留学、起業など自由に記述して下さい) >

Q12 あなたがそのライフコースを選ぶ理由を教えてください。

Q13-a あなたの学年を教えてください。 _____ 年生

Q13-b ポストンに留学した方は、ポストンでのクラスを教えてください。 _____ クラス

Q13-c 最近受けた TOEIC の点数を多少間違っても構いませんので教えてください。 _____ 点

再び大学生活一般についてお聞きます。

Q17 学内のプロジェクト活動に参加したことがありますか。

※学内のプロジェクト活動とは授業以外の活動で、学科や所属ゼミの独自のプロジェクト・公募プロジェクト・光葉キャリア塾・リーダーズアカデミー・サービスマーケティングセンターのボランティア・子育てフェスタスタッフ・チームフラワーなどです。

	はい	いいえ
(1) 所属ゼミのプロジェクトなど必修活動の一環として参加したことがある(参加している)	1	2
(2) (1)以外の公募プロジェクトに参加したことがある(参加している)	1	2

※Q18 は Q17 でいずれかのプロジェクト活動に参加したことがある方(はいと回答した方)のみへの質問です

Q18 学内のプロジェクト活動の経験を通して、 以下の点についてどのように考えますか。	そうである	やや そうである	あまり そうでない	そうでない
(1) 社会人と接する機会が得られた	1	2	3	4
(2) 社会人の考え方を習得できた	1	2	3	4
(3) プレゼンテーション資料の作り方を習得できた	1	2	3	4
(4) プレゼンテーションのやり方を習得できた	1	2	3	4

(5) 計画の立て方を習得できた	1	2	3	4
(6) 計画的にものごとを進める方法を習得できた	1	2	3	4
(7) プロジェクトグループ内での情報共有の方法を習得できた	1	2	3	4
(8) 報告・連絡・相談の習慣が身についた	1	2	3	4

Q19 自由記述欄（後輩に伝えたいこと、大学生活の感想があれば書いてください。）

伝えたいことを後輩に公開してもよいですか？ ☐ はい ☐ いいえ

Q20 あなたは学内の活動でリーダーを務めた経験がありますか（クラス委員、学寮の係、ウイングリーダー、委員会・サークル・プロジェクトのリーダーなど）。

(1) ある (2) ない

就職活動についてお伺いいたします。

Q21 あなたが就職する先から実質的な内定（内々定）をもらったおおよその年月を教えてください。

_____ 年 _____ 月

Q22 あなたは就職活動の結果について満足していますか。

(1) そう思う (2) ややそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない

Q23 就職活動で以下のことで、当てはまるものを教えてください。

	そうである	やや そうである	あまり そうでない	そうでない
(1) SPI 対策に熱心に取り組んだ	1	2	3	4
(2) ES 対策(自己・業界分析含む)に熱心に取り組んだ	1	2	3	4
(3) グループディスカッション対策に熱心に取り組んだ	1	2	3	4
(4) 面接対策に熱心に取り組んだ	1	2	3	4
(5) OBOG 訪問をした	1	2	3	4
(6) 精神的につらい時期があった	1	2	3	4

Q24 以下のことに取り組み始めた年月日（西暦）と、終了した年月日、数を教えてください。

(1) インターンシップ参加 開始: _____ 年 _____ 月 終了: _____ 年 _____ 月 _____ 回

(2) エントリー件数 開始: _____ 年 _____ 月 終了: _____ 年 _____ 月 _____ 件

(3) OBOG 訪問 開始: _____ 年 _____ 月 終了: _____ 年 _____ 月 _____ 回

(4) 会社説明会参加 開始: _____ 年 _____ 月 終了: _____ 年 _____ 月 _____ 回

(5) 面接(グループ面接を含む)参加 開始: _____ 年 _____ 月 終了: _____ 年 _____ 月 _____ 回

Q25 (1) あなたが経験したものは何ですか、(2) また、就職活動で役に立ったものは何ですか

	(1) 経験の有無		(2) 役立ったかどうか			
	あり	なし	そうである	やや そうである	あまり そうでない	そうでない
(1) キャリア支援講座	1	2	1	2	3	4

(2) キャリア支援センターによる個別支援	1	2	1	2	3	4
(3) 教員による支援	1	2	1	2	3	4
(4) インターンシップ参加経験	1	2	1	2	3	4
(5) プロジェクト参加経験	1	2	1	2	3	4
(6) ポストン留学経験	1		1	2	3	4
(7) 学寮参加経験	1		1	2	3	4
(8) その他(自由記述)	1	2	()			

Q25 あなたの就職先について教えてください。

(1) 業種	
(2) 職種	

※業種は、次の分類から当てはまる数字を記入して下さい。

※職種分類 (1) 総合職 (2) 一般職 (3) エリア総合職 (4) 区分なし (5) 専門職

職業分類 日本標準職業産業分類(総務省)

No.	中分類	大分類	No.	中分類	大分類
1	農業	A 農業、林業	51	繊維・衣服等卸売業	I 卸売・小売業
2	林業	A 農業、林業	52	飲食品卸売業	I 卸売・小売業
3	漁業	B 漁業	53	建築材料・鉱物・金属材料等卸売業	I 卸売・小売業
4	水産養殖業	B 漁業	54	機械器具卸売業	I 卸売・小売業
5	鉱業、採石業、砂利採取業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	55	その他の卸売業	I 卸売・小売業
6	総合工事業	D 建設業	56	各種商品小売業	I 卸売・小売業
7	職別工事業(設備工事業を除く)	D 建設業	57	織物・衣服・身の回り品小売業	I 卸売・小売業
8	設備工事業	D 建設業	58	飲食品小売業	I 卸売・小売業
9	食料品製造業	E 製造業	59	機械器具小売業	I 卸売・小売業
10	飲料・たばこ・飼料製造業	E 製造業	60	その他の小売業	I 卸売・小売業
11	繊維工業	E 製造業	61	無店舗小売業	I 卸売・小売業
12	木材・木製品製造業(家具を除く)	E 製造業	62	銀行業	J 金融業・保険業
13	家具・装備品製造業	E 製造業	63	協同組織金融業	J 金融業・保険業
14	パルプ・紙・紙加工品製造業	E 製造業	64	貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関	J 金融業・保険業
15	印刷・同関連業	E 製造業	65	金融商品取引業、商品先物取引業	J 金融業・保険業
16	化学工業	E 製造業	66	補助的金融業等	J 金融業・保険業
17	石油製品・石炭製品製造業	E 製造業	67	保険業(保険媒介代理業、保険サービス業を含む)	J 金融業・保険業
18	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	E 製造業	68	不動産取引業	K 不動産業、物品賃貸業
19	ゴム製品製造業	E 製造業	69	不動産賃貸業・管理業	K 不動産業、物品賃貸業
20	なめし革・同製品・毛皮製造業	E 製造業	70	物品賃貸業	K 不動産業、物品賃貸業
21	窯業・土石製品製造業	E 製造業	71	学術・開発研究機関	L 学術研究、専門・技術サービス
22	鉄鋼業	E 製造業	72	専門サービス業(他に分類されないもの)	L 学術研究、専門・技術サービス
23	非鉄金属製造業	E 製造業	73	広告業	L 学術研究、専門・技術サービス
24	金属製品製造業	E 製造業	74	技術サービス業(他に分類されないもの)	L 学術研究、専門・技術サービス
25	はん用機械器具製造業	E 製造業	75	宿泊業	M 宿泊業、飲食サービス業
26	生産用機械器具製造業	E 製造業	76	飲食店	M 宿泊業、飲食サービス業
27	業務用機械器具製造業	E 製造業	77	持ち帰り・配達飲食サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業
28	電子部品・デバイス・電子回路製造業	E 製造業	78	選別・利用・美容・浴場業	N 生活関連サービス業、娯楽業
29	電気機械器具製造業	E 製造業	79	その他の生活関連サービス業	N 生活関連サービス業、娯楽業
30	情報通信機械器具製造業	E 製造業	80	娯楽業	N 生活関連サービス業、娯楽業
31	輸送用機械器具製造業	E 製造業	81	学校教育	O 教育、学習支援業
32	その他の製造業	E 製造業	82	その他の教育、学習支援業	O 教育、学習支援業
33	電気業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	83	医療業	P 医療、福祉
34	ガス業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	84	保健衛生	P 医療、福祉
35	熱供給業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	85	社会保険・社会福祉・介護事業	P 医療、福祉
36	水道業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	86	郵便局	Q 複合サービス事業
37	通信業	G 情報通信業	87	協同組合(他に分類されないもの)	Q 複合サービス事業
38	放送業	G 情報通信業	88	廃棄物処理業	R サービス業(他に分類されないもの)
39	情報サービス業	G 情報通信業	89	自動車整備業	R サービス業(他に分類されないもの)
40	インターネット付随サービス業	G 情報通信業	90	機械等修理業(別掲を除く)	R サービス業(他に分類されないもの)
41	映像・音声・文字情報制作業	G 情報通信業	91	職業紹介・労働者派遣業	R サービス業(他に分類されないもの)
42	鉄道業	H 運輸業、郵便業	92	その他の事業サービス業	R サービス業(他に分類されないもの)
43	道路旅客運送業	H 運輸業、郵便業	93	政治・経済・文化団体	R サービス業(他に分類されないもの)
44	道路貨物運送業	H 運輸業、郵便業	94	宗教	R サービス業(他に分類されないもの)
45	水運業	H 運輸業、郵便業	95	その他のサービス業	R サービス業(他に分類されないもの)
46	航空運輸業	H 運輸業、郵便業	96	外国公務	R サービス業(他に分類されないもの)